

内閣総理大臣賞

	作品名	作家名	本名	資格	授賞理由
日本画	うみ 海へ	まつぎき じゅう ろう 松崎 十郎		会員	海へと続く、切り拓かれた砂丘、という茫漠とした空間を緻密な描写力と空間構成力で描き上げた力作。何よりも一筋の白い波頭に向かう画面奥への滑らかな視線の推移が巧妙に仕立てられているだけでなく、大地の表情を読む面白さにも十分な工夫が凝らされている。なかでも前景の地面にはめ込まれた色面構成は描写一辺倒の重さを和らげる効果を持ち、作者の表現力の奥深さを感じさせる。
洋画	ダンシング DANCING	きたもと まさき 北本 雅己		会員・審査員	動きのある海外の人物をテーマに挑戦して久しい。 手慣れた絵づくりには優れたものがあるが、これを機に更に前向きな新しい世界を展開して欲しいと期待するものである。

文部科学大臣賞

	作品名	作家名	本名	資格	授賞理由
彫刻	デュエット duet	く どう きよし 工藤 潔		会員	的確な写実性と動感のあるボリューム表現がうまくかみ合い、バランスのとれた作品となっている。 群像表現としても優美な調和をみせ、細部と全体が響き合い、高いレベルを持つ。 以上のことにより、ここに文部科学大臣賞とする。
工芸美術	かみ だんがい 神の断崖 2021	おおひ としお 大樋 年雄	な ら と し お 奈良年夫	会員	大樋年雄の作品は、石や岩、時には崩れかけた崖、また全く異なっているかもしれないが、炎など、決まった形状を持たないが、この世に存在する基本的な物質のもつ変幻自在さから生まれているように思える。確かにあるのだが、変化する。だからかもしれないが、また作品の形状は、何か作者によって与えられたというよりも、土自らがおのれの形を求めて変幻しているにも見えてくる。この辺りの作者の意図を背後に隠して、素材の特性を生かしていくような仕事は焼物の、ある意味では王道である。むずかしいがそこに挑戦しているところが頼もしい。
書	さくら	ひ び の はくほう 日比野 博鳳	みのる 実	会員	余白や遠近感、そして全体の調和が見事である。筆が連続しない連綿を“意連”と呼ぶが、これと美しい連綿が見所といえよう。響き合う点画も合わせて、鑑賞してほしい。

東京都知事賞

	作品名	作家名	本名	資格	授賞理由
日本画	めづる	もり み き 樹 森 美 樹		会員・審査員	慈愛に満ちた瞳、揺るぎない意思を秘めた女性像。実のなる植物や虫の変態が彼女の天性を物語る。生命の循環を静謐に表象する構成と堅牢な下地から創出された清らかな画面構築が高く評価された。
洋画	こもれ <sup>び</sup> 陽 <sup>もり</sup> の森で	おおとも よしひろ 大友 義博		会員・審査員	優れた技術、描写力の持ち主である。叙情溢れる画面からは、そうした技術のみではなく、作者の想いや絵画センスが伝わってくる作品となっている。今後をさらに期待するものである。
彫刻	ま 待て	ほり りゅうたろう 堀 龍太郎		会員	ひげをはやした男の全身像である。無名の人物であるが、肖像彫刻のような趣がある。「待て」というタイトルがなんとも面白い。Tシャツとジーパンを着て、ゆったりと休むような姿勢である。衣類のしわや、素材の質感がみごとである。着衣の具象表現の典型として評価する。
工芸美術	きおく、 なぎさ かざりざら 記憶の渚 飾皿	おな が たもつ 尾 長 保		会員	地引網にかかった魚たちが、ピチピチ、キラキラと輝いている。ずいぶん技法を駆使した作品だが、それを誇示することなく、朝まだきの浜辺で、今日の漁獲を見ているようだ。海辺で暮らす作者の心境が想われる。
書	おうそうじゅし 王僧孺詩	うえまつ りゅうしょう 植 松 龍 祥	ひろよし 浩祥	会員・審査員	明末清初に流行した長条幅の形態を生かし、流れるような筆運びで、筆墨の力強さが見る者を圧倒する。大小字を織り交ぜた文字の交響、複雑に入り込む余白のバランスがすばらしい。

日展会員賞

	作品名	作家名	本名	資格	授賞理由
日本画	エホ <sup>ホ</sup> ック epoch '20-'21	いわた そうへい 岩田 壮平		会員・審査員	<p>コロナ禍の中、大きく変動する社会を見つめて、金色(金箔)一色で描かれた作品は、生の深き業のようなものが浮かび上がる心象的な表現で仕上げられています。</p> <p>現代の様相を重ね合わせた作品で、色彩的にも構成的にも新しい感性で表現されていて、作品として高い評価をうけました。</p>
洋画	また 瞬く	ふくだ あさこ 福田 あさ子		会員	<p>作者は長い間、日本人形を主題にして作品を制作してきた。</p> <p>古来、平家物語が読み続けられて来たように、日本人は人の悲しみが理解できる民族である。日本人形はその日本の心をそなえ静かな美しい人形に作家は虜になったのだろう。</p> <p>日本人形と屏風を組み合わせて日本的な余白の構図で表現した作品は、コロナ禍の混迷した社会の中で清新な風を感じる作品であった。</p>
彫刻	せいしん 清晨	まきの じんいち 槇野 仁一		会員	<p>清らかな朝、「清晨」をタイトルとした通り、汚れのない乙女像を制作した。</p> <p>オーソドックスな具象表現である。作者は理想的な人体を希求し、無垢なる存在を生み出した。造像を行う上での、達意の技術力が光る。</p>
工芸美術	きら 煌めく	たなか てるかず 田中 照一		会員・審査員	<p>「万古不易」。歴史の真理は、いつまでも新しさを失わせないことを感じさせる作品である。</p> <p>V字形の模様、それを包み込む金彩、わずかに紫色を帯びた黒色の配置、そして大ぶりで甲盛りの箱。これらが一体となって現代の律動をきらめかせる。</p>
書	さんごえだえだ 珊瑚枝枝	おにし まさなり 尾西 正成		会員	<p>力強い筆線は迫りに満ち、大胆と言える程で、躍動感にあふれている。同時に、余白を生かし、見事に調和している。米芾、明末清初、さらに墨跡の筆法を自らのものとしつつ、新たな書的美を模索した意欲的な作品は、本賞に価するものと判断される。</p>